

えびの市教育研究センター

I	研究主題と副題	3-4-1
II	主題設定の理由	3-4-1
III	研究の概要	3-4-1
1	研究の目標	3-4-1
2	研究の仮説	3-4-1
3	研究の内容	3-4-1
4	研究の全体構想	3-4-2
5	年間計画	3-4-3
IV	研究の実際	3-4-3
1	授業研究班の取組	3-4-3
(1)	基本的な考え方	3-4-3
(2)	研究の実践	3-4-4
2	環境整備班の取組	3-4-7
(1)	スピーチ活動	3-4-7
(2)	実態調査	3-4-9
V	成果と課題	3-4-10
1	成果	3-4-10
2	課題	3-4-10
○	引用・参考文献	
○	研究同人	

I 研究主題と副題

**確かな学力の定着と地域に貢献する人材の育成
～えびののよさを見付け、語り合う力の育成を目指して～**

II 主題設定の理由

今日、我が国はグローバル化、情報化が進行し、著しい変容を遂げている。その中にある児童生徒は、今後ますます自主性や判断力を迫られる状況にあるとあってよい。

本市は、県西部に位置し、緑豊かな霧島山麓に囲まれ、農林業がさかんである。各地区子ども育成会の活動も活発で、児童生徒が高齢者等からさまざまな年中行事を教わる光景も見られる。さらに、地域を大切に作る風土が次代にも受け継がれているとあってよい。しかし、児童生徒数は今後、緩やかな減少傾向が予想され、人間関係の固定化や希薄化などに起因するコミュニケーション能力不足は、本市の教育上の課題の一つとなっている。

そこで、市教育研究センターでは、「主体的な学びを通して自分とふるさとに誇りを持ち、夢や希望をもって語り合える児童生徒」の育成をめざし、キャリア教育の視点に基づいて3ヶ年計画で研究することにした。初年度となる一昨年度は、基本的な生活習慣と学力向上を本研究の基盤（「学びの基本づくりプロジェクト」）として取り上げ、市内全小・中学校を挙げて取り組んだ。各学校でも既に取り組まれている内容が多かったが、市内共通の目的意識をもって共通実践することで、児童生徒に変容が見られただけでなく、教職員の意識を一つにできたことは大きな成果となった。引き続き、本年度も各学校で発達段階の実態に応じた実践を行っている。また、昨年度は「話すこと」「聞くこと」が中心となるスピーチ活動を、児童生徒側・教職員側それぞれの視点から工夫・改善することにより、スピーチ活動が効果的に運用・実践され、本市の課題の一つであるコミュニケーション能力の育成が図られつつある。

本年度は、1年次、2年次で培われた力をえびの市の特徴であるえびの学の授業で生かすことを中心に研究を進めてきた。えびの学の授業の工夫・改善を進めていけば、えびののよさに気付くことができ、えびのについて語り合う児童生徒の育成が図られるのではないかと考えた。

以上の考え方に基づき、本研究主題・副題を設定した。

III 研究の概要

1 研究の目標

えびの学の授業の工夫・改善やスピーチ活動等言語活動の充実を通して、えびののよさに気付き、語り合う力の向上を図る。

2 研究の仮説

仮説Ⅰ えびの学における、えびののよさに気付くことのできる資料の工夫や授業改善を行えば、えびのについて語り合う力を育成することができるだろう。

仮説Ⅱ 1分間スピーチを中心とするスピーチ活動等を円滑に行うための環境を整備すれば、コミュニケーション能力が高まり、えびのについて語り合う力を育成することができるだろう。

3 研究の内容

<3ヶ年計画>

(1) 1年次

市内全小中学校における学びの基本づくりプロジェクトの実践（試行）を通じた、基本的な生活習慣の定着と基礎学力の向上

(2) 2年次

1分間スピーチを中心とする言語活動を通じたコミュニケーション能力の育成

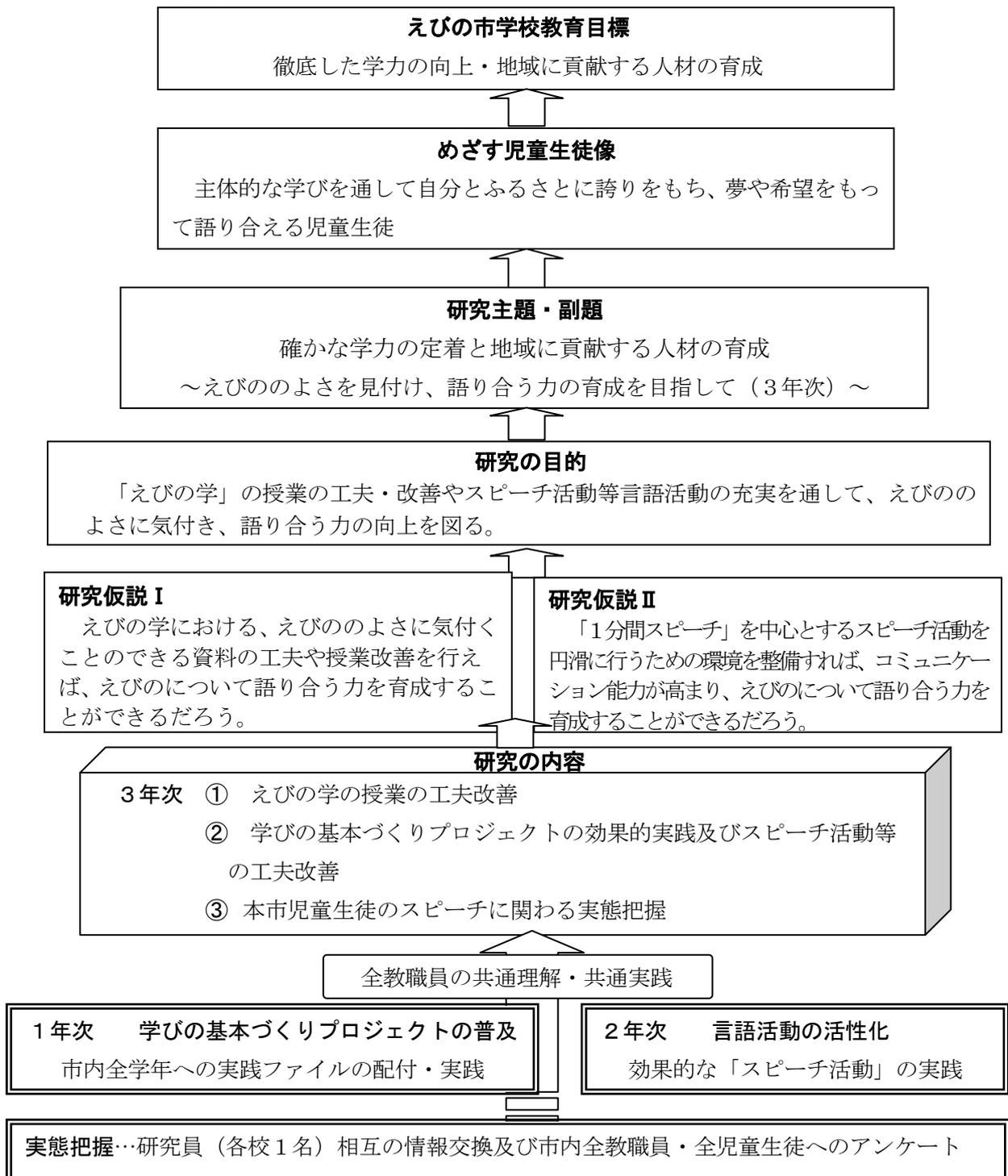
(3) 3年次

えびののよさを見付け、語り合う力の育成

<本年度の研究内容>

- えびの学の授業の工夫改善
- 学びの基本づくりプロジェクトの効果的実践及びスピーチ活動等の工夫改善
- 本市児童生徒のスピーチに関わる実態把握

4 研究の全体構想



5 年間計画

月	研究内容	月	研究内容
4月	研究の方向性の検討 共通実践事項	10月	研究授業の指導案作成、資料準備 共通実践事項
5月	研究の方向性の検討 理論の構築	11月	研究授業 事後研究会
6月	理論の構築 研究内容の決定	12月	アンケート作成 検証とまとめ
7月	各学校での実践に向けての資料準備	1月	まとめの作成 発表準備
8月	各学校での実践に向けての資料準備	2月	県・市での発表 次年度に向けて
9月	研究授業の指導案作成 資料準備	3月	反省及び次年度の計画

IV 研究の実際

1 授業研究班の取組

(1) 基本的な考え方

ア 「語り合う」とは

本研究においてえびの学での語り合うとは、「えびのについて、調べ学習や体験学習などを通して得たこと・学んだことを自分の意見（考え・思い）とともに話し、他者の意見を聞いてさらに理解が深められること。」とした。話し合いをして1つに意見をまとめていくものでなく、それぞれの思いを自分の言葉で語り、互いに聞き合い、友達の思いを受けとめ、相違点を考えながら、さらに自分の思いを高めたり広げたりすることと捉える。

イ めざす子どもの姿

えびの学のねらいを発達段階に応じて達成するために設定されためざす子どもの姿に、語り合いに関わる評価の観点に関連付けて以下のえびの学がめざす語り合う子どもの姿として整理した。これにより、語り合いを取り入れた授業を組み立てる際に、何に基づいて語らせるのかが明確になるものとする。

資料1 【えびの学がめざす語り合う子どもの姿】

学年	めざす子どもの姿	評価の観点(技能・表現)
小学校低学年	えびのの様子に興味・関心をもって語れる児童	考え・思いが言える
小学校中学年	えびののよさを情報に基づいて語れる児童	情報の説明ができる
小学校高学年	えびのの大切さを体験に基づいて語れる児童	体験の説明ができる
中学校	えびのの未来を根拠に基づき自分の言葉で語れる生徒	客観的に説明できる
高等学校	えびのの未来と自分の生き方を結び付けて語れる生徒	的確に説明できる

「えびの市一貫教育推進の手引き」及び「えびの学 学習指導のための要領・解説 指導のための資料集」より

ウ よさを見付ける手立て

えびのについて語り合うためには、自分の経験や体験活動、調べ学習を通してえびのの課題やよさに気付くことが不可欠である。そこで、えびののよさを見付けるという視点から、調べる段階やまとめる段階、そして語り合う場面においても提示・活用できるような「よさに気付く7つの視点」を作成した。

資料2 【よさに気付く7つの視点】

<p>○自然・気候・環境 「きれいだな」「気持ちいいな」「ふしぎだな」「おもしろい」「～で住みやすい」「～で過ごしやすい」</p> <p>○歴史・伝統（歴史的背景） 「〇年も続いているんだ」「昔は～だったんだ」「昔～があったから、今、…なんだ」</p> <p>○産業・生活・経済（社会における企業の役割） 「〇〇の収穫量はすごい」「～だから…が多いんだ（発展したんだ）」</p> <p>○地理的条件 「～に近い」「～に囲まれている」</p> <p>○人（願い・工夫・努力） 「昔～な人がいた」「～しようと努力しつづけた」</p> <p>○他地域との関係性（結びつき） 「〇〇県とは～な関係だ」「～の国とは国際交流が続いている」</p> <p>○将来性（未来への展望・これからのえびの市にとって） 「えびのの〇〇は将来～になると思う」</p>
--

(2) 研究の実践

ア 語り合う学習形態

語り合う学習形態は、ペア、グループ、学級全体と様々なスタイルが考えられる。語り合う内容が同じ場合と違う場合で学習形態を区別し、学習目標に合った学習形態を取り入れることで、より活発な語り合いがなされるように学習形態の整理・例示を行った。特にバズ・セッションを応用し、より多くの児童生徒に発言させ、意見を交わし合うことで理解が深まるようにした。

バズ・セッションとは、6人ほどのグループに分かれ、くつろいだ雰囲気の中で問題解決に近付こうとするものである。あるテーマをもとに、できるだけ多くの人に発言をしてもらい、さらに新しい考えを引き出すことをねらいとしている手法である。本研究は、問題解決的な話し合い活動を目指してはいないが、この手法をペア・グループ・KJ法などに応用して、考えや意見の方向性を捉えたり、多様なアイデアを出し合ったり、またそれらを整理したりすることで、他者の意見や考えを聞き、テーマについて理解を深めさせることをねらいとした。

その他にも、ラベル（紙に書いたもの）を相互のコミュニケーション手段として活用するラベルトークや、分担して学んだことを組み合わせるジグソー学習、ポスターセッションやパネルディスカッションも語り合いの学習形態に活用できると考えた。

資料3 【語り合う学習形態】

	学習・体験内容が同一	学習・体験内容が違う
学習形態	バズ・セッション（ペア・グループ・KJ法）	バズ・セッション（ペア・グループ・KJ法）
	ラベルトーク	ラベルトーク
	パネルディスカッション	パネルディスカッション
		ポスターセッション
		ジグソー学習

イ 語り合う場面を設定した単元計画及び学習指導過程

えびののよさに気づき、えびのについて語り合う場面は、単元の学習計画の中の後半や最後のまとめの部分に位置付けて実施できるのではないかと考えた。以下は、その例である。

(ア) 単元計画 中学校第1学年「えびのに生きるための方法を探ろう！」 (全8時間)

単元名		えびのに生きるための方法を探ろう！	領域	えびのの未来と将来の自分
第1段階	1	1 えびのに暮らす人々の思いや考えを予想する。 (例) えびのに暮らそうと思った理由 えびのに暮らしての感想 えびのに対しての要望		○ えびのに暮らしている保護者等に質問させ、身近な人の思いを感じさせる。
	1	2 えびのに暮らす(地区)人の講演とインタビューをとおして、その人たちの思いや考えを知る。		○ 一人10分程度の講演として、多くのえびのに暮らす(地区)の人に講演してもらう。
第2段階	1	3 講演やインタビューをとおして見えてきた、えびのの特色や課題についての自分の考えをまとめる。		○ 自分たちの予想と比較しながら、自分の考えをまとめさせる。
	1	4 ソーシャルスキルトレーニングをとおして、接し方について考え、お互いの考えを語り合う。 (友人と「語り合う」)		○ 接し方の方法を知り、繰り返し行う。 ○ 練習をとおして、自分の考えを効果的に伝える方法を考えさせる。
	3	5 ふれあい活動として、えびのに暮らす人(在宅高齢者、老人ホーム、国際交流センターなど)を訪問し、自分の考えをえびのに暮らす人と語り合う。 (地域の人と「語り合う」)		○ ふれあい活動の実施時間等について入念に打ち合わせ、えびのに暮らす人々の負担にならないように注意する。
	1 本時	6 ふれあい活動で、えびのの人たちと語り合った後の感想等をまとめる。 (友人と「語り合う」)		○ ふれあい活動からもさらに得た、えびのの特色や課題をもとに自分の生き方について参考になった部分を発表させる。

(イ) 学習指導過程

段階	時間	学習活動及び学習内容	指導上の留意点 ◎は評価項目	資料・準備
導入	5分	1 本時の学習内容を知る めあての確認 ふれあい活動の後、新たに見えてきたえびのの特色と課題をもとに、これからの自分の生き方について考え語り合おう！	○ ふれあい活動の結果からさらに得られたえびのの特色と課題を発表させ、めあてにつなげる。	「えびのの特色と課題」
展開	40分	2 これからのえびのに自分が果たすことのできる役割を考える。 ○ 「特色」からえびのの市をもっと成長させること、「課題」からそれを解決する方法を考えワークシートにまとめ、発表する。(個人) ○ <u>えびのをもっと成長させるためや課題の解決のために、自分がどんな形で関われるかワークシートにまとめてグループで語り合う。</u> (個人→グループ) ○ グループで、語り合っ感じたことをワークシートにまとめ、発表する。(全体)	えびののよさに気付く ○ えびのの特色を生かしてより発展させていく方法、及び課題を解決する方法を考えさせる。 「語り合う」場 ◎ ふれあい活動から得たえびのの特色や課題をもとに、自分の果たす役割について語り合うことができる。 ○ 各グループの語り合いの中で出た意見や考えたことを全体で共有し、考えを深める。	ワークシート ワークシート ワークシート
終末	5分	3 本時の学習のまとめをする。 これからのえびのの市を担う私たちは、えびのの良さや課題を意識して生き方を考えることが大切である。		

ウ 検証授業 小学校6学年「えびのの今と未来」

(ア) 協議の視点

えびのに住む子どもたちが自分たちの地域のよさや課題について気付き、現実を直視しながらも明るい未来の展望を抱いてお互いに語り合うことができるように、資料の提示の仕方や語り合うスタイルの選択を工夫し、ワークシートを工夫するなどして目指すイメージに迫ろうとした。

(イ)授業の実際

階	時間	学習活動及び学習内容	指導上の留意点 ◎は評価項目	資料・準備
導入	5分	1 本時の学習内容を知る。 めあての確認 「めざす街のキャッチフレーズ」を考え、これからのえびのの姿について語り合おう。	○ えびの市の課題に対する“えびの市元気づくり”案を考えたことを思い出させ、めあてにつなげる。	
		2 前時で考えた案にランキングをつけ、今すぐ解決できそうなことについて考える。(個人) 3 ランキング1位の案をもとに「めざす街のキャッチフレーズ」を考え、グループで語り合う。(個人→グループ) 4 グループで語り合っ感じたことを発表する。(全体)	○ 今すぐ解決するためには、えびののよさを生かすことも必要であることに気付かせる。「よさに気付く7つの視点」を提示し、考えさせる。 ○ (例)「めざせ! 防災都市日本一」「だれにでもやさしいえびの市」など、いくつか例を示したり、理想とする街のキーワードを提示したりして考えさせる。 ○ グループでの語り合い活動をさせ、それぞれが考えたキャッチフレーズについて感想を出し、交流する。 ○ 各グループの語り合いの中で感じたことを全体場で発表しあうことで、考えを広げさせる。 ◎ えびの市の未来について自分の考えをもって、語り合うことができる。	ワークシート 「7つの視点」 理想的な街に関するキーワード
終末	5分	5 本時の学習のまとめをする。 えびのの課題について考えてきたことを生かして、自分たちにもできることを考えていこう。	○ 本時の学習活動をもとに、次時の学習で取り組むことについて話を聞き、意欲を高める。	

(ウ) 考 察

- a 語り合いの充実のためには、児童生徒は自分の意見を確実にもつことが大切である。今回の授業ではそのための資料提示が質、量ともに充実し、児童が単元全体をイメージできる教室掲示となっていた。
- b 本実践において使用された、バズセッションとラベルトークのスタイルは、有効に機能した。こうした成果の上でキャッチフレーズのグループで話し合った後に他の班と意見を交換するジグソー法を取り入れるなどして、さらに活性化を促進するということも考えられる。
- c 今後、型から脱却した語り合いをめざしていく必要がある。そのために、認め合う意見だけでなく、付け足す意見や創造的な意見を引き出すような指導や評価を考えていきたい。

資料3 【授業で使用したワークシート】

えびのの今と未来

名前()

1 自分の考えたい「えびの元気づくり」案にランキングをつけよう。

1	6	理由 輸入穀物を今指導をいから方々が指導をせめたり、そこでえびのの大切な伝統芸能もあどりかたがなくなってしまうから。
2	1	理由 中学校の行事で取り
3	4	理由 えびのは、お米がおいしいという特産品が有名であり、そのおいしいお米を作りたくて興味をもつ人が増え、お米の産地としてもいけるから。

2 キャッチフレーズを考えよう!

高齢者にもたれにても やさしい心を持つ
えびのの町

< どんな思いから >

えびの市には 高齢者が多くあり、今この課題は又それを増やすということであり、他の県にあるように高齢者に対してはバズセッションをして又それを増やすという反対のことに思っています。

3 友達のカッチフレーズについて語り合った感想を書こう

自然のこと、お米のこと、伝統芸のことを残していきたいという意見が77歳でえびの市から出てくるいいところを次の世代に受け継いでいくのが、私の役目なのではないかとえびの市にたいしての思いが強まりました。運動会や高齢者の会など、何故かを全部にすべからず考えたと思えます。お米はえびの市に取組むべき文化は又たです。

2 環境整備班の取組

(1) スピーチ活動

ア スピーチ活動について

学習指導要領の総則には、配慮すべき重要な事項として、児童生徒の言語環境を整え、言語活動を充実させることが掲げられている。もちろん、言語活動を広義で捉えれば、児童生徒は学校で日常的に話を聞く、教科書を読む、ノートに文字を書く、などの言語活動を行っている。しかしながら、えびの市が目標とする地域に貢献する人材の育成に資するためには、焦点を絞り、意図的・計画的に言語活動を行わなければ、その活性化や充実を図ることは難しい。特に、児童生徒が主体的に学ぶ中で思考力、判断力、表現力等を高めていくには、音声言語を用いて互いの考えを伝えていくことが不可欠である。

そこで、本年度も一昨年度から開始した学びの基本づくりプロジェクトの基盤の上に、音声言語によるコミュニケーションの基礎としてのスピーチ活動に焦点を当てて実践研究を進めていくこととした。その中でも、えびの市が掲げる地域に貢献する人材の育成、研究副題にもなっているえびののよさを見付け、語り合う力の育成を目指し、昨年度から実践しているすごろくトークを改良し、市内の学級担任を中心とする指導者が、「これならばぜひ使ってみよう」と思えるような利便性のある資料等を作成することを主眼において調査、研究、準備等を開始した。

イ スピーチ活動に関わる指導内容の精選

スピーチ活動は、国語科の「話すこと」「聞くこと」の領域に大きく関わってくる。それぞれの学年でどのようなスピーチを行えばよいのかについて教師用のマニュアルを作成してスピーチ活動に取り組むことにした。

そこで、「学習指導要領解説国語編」「A話すこと・聞くこと」(小学校低学年～中学校3年)をもとにして、スピーチを指導する際の指導の要点をまとめた指導のポイントを作成した。活用方法としては、児童・生徒の実態に応じて、どのような点に重点をおいて具体的な指導をすればよいか、挙げられたポイントの中から選択して指導できるようになっている。指導のポイントの表は、「話すこと」と「聞くこと」に分け、小学校低学年・中学年・高学年中学校1年・2年・3年の各学年で身に付けさせたい「話すこと」「聞くこと」の指導内容を具体的に示している。

学びの基本づくりプロジェクトや1分間スピーチを中心とするスピーチ活動等を円滑に行うための資料等を各学校で活用していくために、広報用のリーフレットを作成した。そして、学級担任の理解と協力を得て、全児童生徒への指導体制を整えることができた。

学年	話すこと	聞くこと	ワークシート番号	スピーチ評価表	
(小)低学年	<p>*身近なことや経験したことなどから話題を決める。</p> <p>①身近なことについて話す。 ②事柄の順序を考えて話す。</p> <p>【話す内容】 ・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」などの話型に気をつけて話す。 ・「はじめに」「つぎに」「それから」「さいごに」などの順序を示すことばを使う。 ・そう思ったわけを入れて話す。</p> <p>【話し方】 ・からだを聞いている人に向けて話す。 ・せなかをまっすぐにして顔をあげて話す。 ・口を指2本ぶんあけてお腹から声を出す。 ・ていねいな話し方で話す。</p>	<p>*大事なことをおとささないように聞く。</p> <p>【ポイント】 ・話す人の目を見ながら聞く。 ・せずじを伸ばして聞く。 ・「なるほど」と思うところでうなずきながら聞く。 ・大事なことは何か、考えながら聞く。</p>		スピーチのものと①～②	<p>話す内容レベル 1～2</p> <p>話し方レベル 1～4</p> <p>聞き方レベル 1～4</p>

資料4【指導のポイント(指導者用資料)】

ウ スピーチ活動の実際

(ア) スピーチのもと

えびの学の授業や1分間スピーチで、発達段階や話す能力の実態に応じて指導者がシートを選択し、児童生徒に事前に記入させることで、ポイントをおさえた分かりやすいスピーチができるように工夫した。

本市の実態として、文を構成し、相手を意識して伝えることがスピーチを行う上で難しいと感じる傾向が見られたため、メモとして活用する程度にしたり、しっかり書き込ませて原稿としてスピーチに活用させたりするなど、児童生徒の話す能力に応じて活用できるように幅をもたせた。

(イ) すごろくトーク（えびの学版）

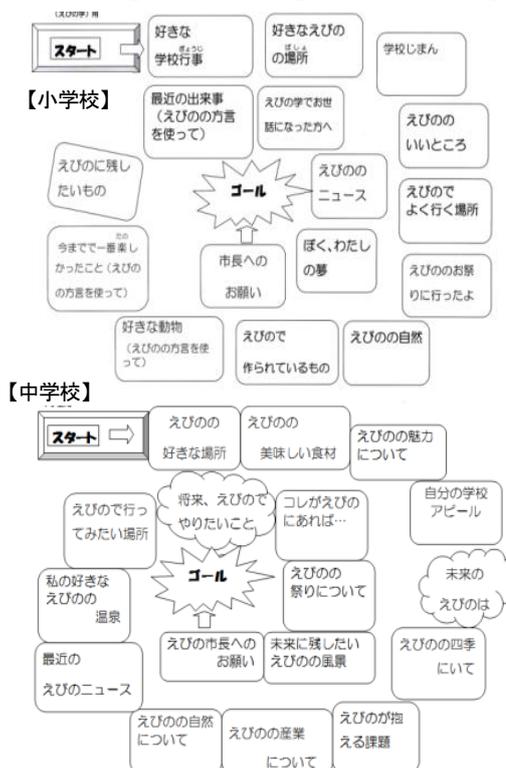
えびの学で学んだことや、今までの実体験を基にスピーチ活動に取り組めるよう、昨年度からの取組であるすごろくトークのえびの学版を作成した。えびの学の年間指導計画と照らし合わせ、えびのの産業や観光、方言、さらには、えびの市が抱える課題等を盛り込んだ。学級活動や、朝の会、帰りの会の1分間スピーチの際に活用し、えびのについての自分の考えをまとめ、他者の意見を聞くことで、自分の考えを深める機会が設定できるようにした。

そして、多様な視点からえびのの過去や今を捉え、未来へ向けて自分たちが出来ることを見つめなおすことができるようにした。

(ウ) スピーチ評価表

スピーチ評価表は児童生徒がスピーチをするにあたり、どの程度のスピーチができるかと良いか、生徒側・指導者側のそれぞれが目標をもって取り組めるようにする目安のようなものである。評価表は、国語科の学習指導要領を参考にしながら、小学校1年から中学校3年までの体系的な内容を一覧にまとめている。児童生徒においては、例えば、事前指導としてこれまでの自身のスピーチ活動について振り返ったり、所属する学年の目標を明確にして自分のスピーチ活動を自己評価・相互評価したりする取組が考えられる。指導者側においては、評価の項目を一覧

にすることで、児童生徒がこれまでどのようなスピーチ活動に取り組んできたのかを把握することができる。また、各学級の児童生徒の実態・発達段階に応じて基準目標を選択して提示したり、独自で評価表を作成する場合に評価項目の参考資料として利用したりすることもできる。



スピーチ評価表 名前【 】		スピーチ 聞き方評価表 名前【 】	
レベル	話す内容	レベル	聞き方
1	「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」「どうした」などの語彙を使って話す。	1	聞いている人に声をかけて話す。
2	「はじめに」「つぎに」「おわりに」などの接続語を使って順序を明確にして話す。	2	背中をまっすぐにして顔を上げて話す。
3	「一つ目は」「二つ目は」「三つ目は」のようなナンバリングを使い、話の要約がわかりやすいように話す。	3	口を大きくあけ、お腹から声を出す。(声の大きさ)
4	理由を挙げながら話す。	4	ていねいな話し方をする。
5	関心したことなどの事例を挙げながら話す。	5	話す速さや音量に気を付けて話す。
6	話のテーマをはっきりして話す。(ほしめに話を伝えたいことを話す。)	6	言葉の調子や聞のとり方に気を付けて話す。
7	具体的な事実(写真や資料)を示しながら話す。	7	相手に応じてわかりやすい語彙を選んで話す。
8	人名や地名、もの名前や動植物なども具体的に話す。	8	相手や場に応じた言葉遣いなど、知識を生かして話す。
9	最後に自分の意見や考えをまとめて話す。	9	必要に応じて共通語や敬語を適切に使って話す。
10	相手の反応をみるまながら話す。	10	資料や資料などを効果的に活用して話す。
11	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話す。話の中心部分と付加的な部分など、話の構成や展開を考へて話す。		
12	語句や文、資料などを用い、説得力のある話をする。		
13			

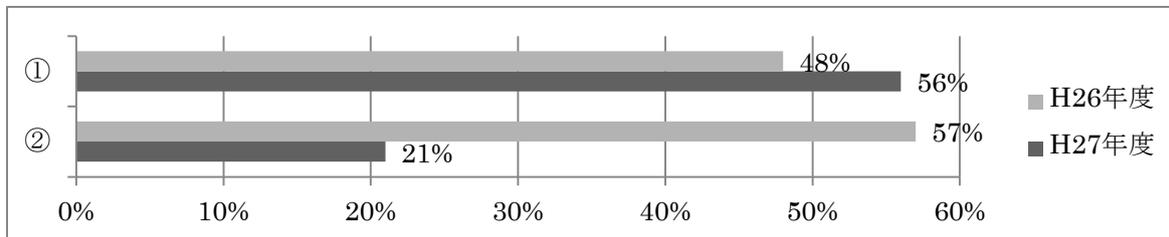
資料5【スピーチ評価表】

(2) 実態調査

語り合う力の基礎となるスピーチにかかわる実態調査をえびの市の全児童生徒に対して行った。昨年度との結果を比較することで実践の成果や新たな課題が見えてきた。

ア 小学校の部

- ① スピーチ活動は好きですか。
- ② スピーチをするときに、難しいと感じることはありますか。



- ③ スピーチ活動でどんなことができるようになりましたか。

・はきはき大きな声で言うこと ・間を取りながら話すこと
・具体的に話すこと ・テーマに沿って話すこと ・訳や理由を言うこと
・文の構成を工夫すること ・事実と意見を区別して話すこと

- ④ えびの市の好きなところや知っていることはありますか。

ある・・・94% ない・・・6%

・お米（ヒノヒカリ）や野菜がおいしいこと ・きれいな水があること ・温泉があること
・有名な歴史人物がいた（島津義弘） ・昔のお祭りや伝統芸能が残っていること

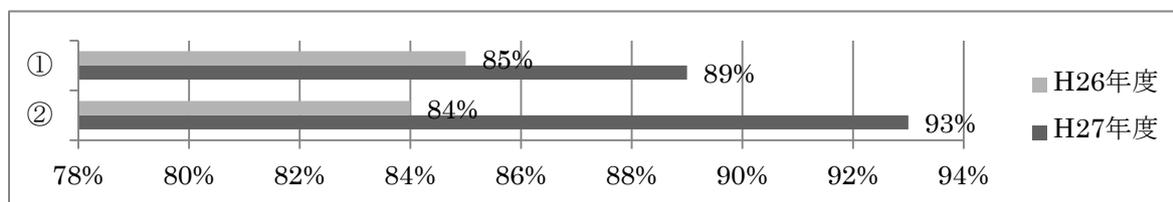
～考察～

質問①では「スピーチ活動が好き」と答えた児童が56%と、昨年度「好き」と答えた割合と比べると8%上昇していることが分かる。質問②では「スピーチをするときに、難しいと感じる」と答えた児童が21%で、昨年度と比較して難しいと感じる児童が30%以上も減ったことが分かった。質問③から声の大きさや話すときの態度だけでなく、事実と意見を区別したり、文の構成を考えたりして述べるなど話すときの技能も上達したと実感している児童が多くいることが分かった。

また、質問④では、「えびの市の好きなところや知っているところがある」と答えた児童が94%見られた。好きなところや知ってことを聞いたところ、えびの市の特産物であるお米などの農作物について、えびの高原や川内川などの自然、田の神さあや地元のお祭りなどの文化遺産について答えた児童が多く見られた。加えて、高学年になるにつれ、えびの学や社会科で学習した内容を書いている児童が多かった。

イ 中学校の部

- ① スピーチをすることは自分のためになると思いませんか。
- ② 友達のスピーチを聞くことは自分のためになると思いませんか。



～考察～

アンケートの結果、質問①の「スピーチ活動は自分のためになると思いませんか」という問いに89%の生徒が「自分のためになっている」と、肯定的な意見を述べた生徒が昨年度より多いことが分かった。また、質問②の「友達のスピーチを聞くことは自分のためになると思いませんか」という質問では、93%の生徒がためになると肯定的な意見を示し、昨年度の結果と比べると10%近く、上昇している。どちらの質問に対してもスピーチに対する肯定的な意見が上昇したことは、昨年度より継続してえびの市全体でスピーチ活動を行ってきた成果だと考える。

V 成果と課題

1 成果

- 語り合うという言葉の概念が整理でき、語り合いを取り入れる活動において何をどう語らせるか、育てたい子どもの姿などのゴールイメージをもって指導に当たることができた。そして、授業公開を行うことで、語り合いのさせ方や、ワークシートの活用についての実践を市内各校へ広めることができた。
- 3年間の研究を通して、学びの基本づくりプロジェクト、スピーチを中心とする言語活動の実践を普及させることができ、各学校で工夫した取組も見られた。また、すごろくトークえびの学版を用いることにより、スピーチ活動が独立するものではなく、えびの学や他教科と関連付けて行えるようになった。

2 課題

- えびの学をさらに深まりのある教育実践にするための工夫改善
- 言語活動の充実による確かな学力を向上させるための手立ての構築
- 児童生徒の発達段階に応じたスピーチ実践の工夫改善

○ 引用・参考文献

- ・ 学習指導要領 文部科学省
- ・ えびの市一貫教育推進の手引き
- ・ えびの学 学習指導のための要領・解説 指導のための資料集

○ 研究同人

役 職	氏 名 (所 属)	役 職	氏 名 (所 属)
所 長	萩原 和範 (えびの市教育委員会教育長)	研 究 員	井上 岳 (えびの市飯野小学校教諭)
主 幹	盛満 政仁 (えびの市教育委員会主幹)	研 究 員	水尾 友紀 (えびの市立上江小中学校教諭)
指 導 主 事	肝付 正籍 (えびの市教育委員会指導主事)	研 究 員	寺師 鮎美 (えびの市飯野中学校教諭)
指 導 主 事	中村 敏彦 (えびの市教育委員会指導主事)	研 究 員	阿蘇品 雄 (えびの市立上江小中学校教諭)
主 任	川野 裕二 (えびの市立岡元小学校教頭)	研 究 員	濱元 盛佑 (えびの市立加久藤中学校教諭)
研 究 員	松元 洋子 (えびの市立加久藤小学校教諭)	研 究 員	野崎友里枝 (えびの市立真幸中学校教諭)
研 究 員	坂元 秀二 (えびの市立真幸小学校教諭)	授 業 提 供 者	檜畑 文範 (えびの市飯野小学校教諭)